

「金属を通して地球を、そして宇宙を考えると、これが金属技術の中心だ。金属が持つ無限の可能性に取り組み、豊かな発想と確かな技術で環境にやさしい、快適な未来づくりを目指すという。メタルソリューション企業」という目標を掲げている。

熱処理から機械加工、超塑性成形、HIP、接合、焼結、溶接、積層造形、さらに解析・分析にいたるまで金属加工に関する高度で幅広い技術の蓄積を持つ。半導体・液



長谷川数彦社長

金属技研

晶、宇宙・航空分野をはじめ、先端技術分野からの信頼は厚く、業容も急拡大している。取引先も日本の先端技術を牽引する大手企業がズラリと並んでいる。

金属技研は60年に理化学研究所を中心とした研究グループが熱処理を営業品目として設立された。その後も時代の二

ズを先取りする形で、新技術、新材料の開発に取り組み、金属加工の広範な分野でトップランナーを走り続けている技術開発志向の強い企業である。

技術力の確かさは、高温・高圧が要求される火力発電用ガスタービン部品や航空機用エンジン部品、また高精度加工が

実な歩みを続けてきた金属技研が、ここにきて受注拡大に向け思い切った設備増強を行う。09年度までに60億円を投じ、国内5工場を増強する。

主力の姫路工場（兵庫県姫路市）では40億円を投入、工場棟、機械設備を拡充する。IT分野をはじめエネルギー、航空機分野からの受注の増加

の部品の大型化に備える。5軸のマシニングセンター（MC）も導入。加工の高度化、生産能力の増強に取り組み。

一方、航空機用チタン部品の受注増に対応、滋賀工場（滋賀県愛知郡愛荘町）に国内最大級の熱間成形機を導入した。長尺部品や大型部品の熱間成形が可能になる。成形機周辺設備を含め投資総額は約5億円。

メタルソリューション企業 快適な未来づくりに貢献

求められる半導体製造装置用の真空チャンバーなどに同社の加工製品が採用されていることで実証済み。異種合金の接合、チタンなど難加工材の加工技術などノウハウの蓄積がものを言う分野で確実な地歩を築いている。業界の評価も高く、堅

に対応するためだ。06年度は主に機械加工の設備増強を行う。1億7000万円を投じ、大型5面加工機を導入した。当面、半導体製造装置、液晶製造装置などIT関連分野で使用するアルミ製部品の加工に用いる。07年1月には大型部材の熱処理が可能な真空炉を導入する予定。航空機、発電用タービンなど

が増産基調にあることを受け、航空機部品の需要が急拡大している。チタンを素材にした部品は耐熱・耐衝撃性に優れ、重要な部分に使用されている。しかし、加工が難しく、熱処理についても航空機メーカーの認定が必要だ。金属技研は77年に米ボーイングの「BAC規格」の認定に合格している。さらに今年、民間航空機の特許工程に対する国際認証「Nadcap」の承認を得ている。

材の熱処理が可能な真空炉を導入する予定。航空機、発電用タービンなど